

## 2 統合と跡施設の区別

### 過去の地元代表協議会等における多様な意見

- 地域を活性化させる意味では、跡施設活用を含めた統合の議論が必要
- 統合場所の検討に際し、避難所や公共施設の配置バランスも重視すべき
- 跡施設活用が見通せないで統合校の設置場所に関する議論が進展しない



- 避難所等の配置バランスではなく、子どもたちにとってより良い場所を統合校とするべき
- 子どもたちの教育環境を最優先に考えるべき、跡施設の議論をすると子どもたちのための話し合いが遅れてしまう。分けて考えてほしい。
- 跡施設の要望を「統合の条件」とすることは適切ではない



学校規模の適正化に向けて、総論的には「統合すべき」の意識は比較的早期に醸成されるものの、「自校が統合校なら可。他校が統合校なのは不可。」との意識も根強くあるなど、地域から学校が無くなることに対する心理的抵抗感が根強いことから、協議が長期化することもあった。

しかしながら、「子どもたちのためにより良い教育環境を整える」との思いは、様々な立場を代表する各関係者共通の思いであり、**原点かつ最大の目的に立ち返り、適正配置に関する決断がなされてきた。**

学校の統合により結果的に発生する跡施設は、本市の貴重な公有財産として「資産経営基本方針」に基づき、跡施設の利活用が検討されており、その目的は「子どもたちのよりよい教育環境の整備と教育の質の充実」を目的とする学校適正配置とは直接的には整合しないことから、「統合」と「統合後の跡施設」に係る検討は区別して取り組んできた。



平成29年4月 花見川小学校開校



平成27年6月  
幸町小学校の統合後、初めての運動会